

## 山形県教育委員協議会の概要

### 1 日 時

令和7年8月27日（水）15時27分～16時01分

### 2 場 所

山形県庁舎教育委員室

### 3 意見交換テーマ

教職員の養成・確保について

### 4 主な発言要旨

- ◇ SNS等の普及により様々な情報が発信されており、教職員の業務が多忙というマイナスイメージが先行していることを憂慮している。その一方で、やりがいを持って教職員として働いている方も大勢いて、そのような教職員に指導を受けた子ども達が教職員になりたいという気持ちを育むことが大切だと感じる。(和田委員)
- ◇ 山形大学地域教育文化学部の地域枠入試や、今後、設置が見込まれる教育学部により、教職員を目指す学生が増え、本県の教職員の確保につながることを期待している。(和田委員)
- ◇ 教職員の働き方改革の取組みにより、在校等時間数は減少しているが、家に持ち帰っての業務など、在校等時間に表れない部分もあるのではないかと心配され、改善や工夫につなげていく必要があると感じる。労働環境や処遇の改善も必要だと感じる。やりがい搾取になってはならない。(丹治委員)
- ◇ 若い教職員の人材育成・定着を図るには、担任制ではなく、教職員同士のコミュニケーション・対話ができるような様々な経験や知識を持った年代で学年・教科などによるチームを構成して取り組んでいくやり方も効果的と考える。(丹治委員)
- ◇ 人口減少が大きな社会問題となっており、全ての業種で人手不足が顕在化している中で、教職員の仕事は業務内容がイメージしやすく、子ども達からもよく見える親しみのある仕事・職業と思う。子ども達にとって身近な存在の教職員が、やりがいや楽しさを感じながら働いている姿を見せることができれば、教職員になりたいと思う子ども達が増え、将来の教職員の志願者につながるのではないかと感じる。また、教職員の働き方改革の取組みと一緒に、教職員の魅力ややりがいを発信する工夫も必要ではないかと感じる。(手塚委員)
- ◇ 以前は、教職員は人気の職種で、なかなか合格することができずに教職員以外の職に就いている人が多くいると聞く。教員免許を持ちながら教壇に立っていない、いわゆるペーパーティーチャーは県内にも一定数いると思われるため、その掘り起こしに向けた取組みを強化することが効果的と考える。(小関委員)

- ◇ 民間企業ではファミリーデーを開催し、身近な家族や知り合いを職場に招き入れて、その仕事に対する相互理解を深めている。学校で同様の取組みがあれば、身近な存在に教職員の魅力が伝わるようになり、教職員の志願者数の増加にもつながるのではないか。(小関委員)
- ◇ 教職員がしなければならない業務を細分化し、例えば子どもたちの心のケアに関することはカウンセラーなどの専門家に、学校徴収金の管理や調査・統計等の回答は事務職員に任せ、教職員は授業づくりなどの教職員でなければできない部分に特化する学校づくりを進めていくことが効果的と考える。先日訪問した山形南高校では、大学生になった卒業生の力も活用して学校行事を運営しているようであり、人手不足の中で有効な手立てだと感じた。(工藤委員)
- ◇ 民間企業では、1人の社員にスポットを当て、そのインタビューをホームページに載せるなどの取組みがあり、教職員においても同様に情報発信することで、仕事の内容をイメージしてもらいやすくなり、教職員に対して魅力や憧れを感じ、教職員を目指す人も増えてくるのではないか。(工藤委員)